

平成21年4月20日現在

研究種目：基盤研究（A）
研究期間：2006年度～2009年度
課題番号：18203031
研究課題名（和文） ソーシャルワークの特性に関する実証的研究—ケアマネジメントとの
関連をもとに
研究課題名（英文） Demonstrative Research on Characteristics of Social Work
： From the Relationship with Care Management Practice
研究代表者
白澤 政和 (SHIRASAWA MASAKAZU)
大阪市立大学・大学院生活科学研究科・教授
研究者番号：20094477

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会福祉学
キーワード：ソーシャルワーク

1. 研究計画の概要

- (1) ケアマネジメントとソーシャルワークの関係の理論的に整理するだけではなく、現実にソーシャルワーカーとケアマネジャーの業務の違いを明らかにする。
- (2) ケアマネジメントでは行っていないソーシャルワークの業務を抽出する。
- (3) ソーシャルワーク独自の業務の方法を明確にする。
- (4) ソーシャルワークとケアマネジメントの関係を明らかにする。

2. 研究の進捗状況

- (1) 現状でのソーシャルワーカーとケアマネジャーとの業務内容の比較調査の結果、ソーシャルワーカーの業務内容はケアマネジャーの業務内容よりも広く捉えており、個人や組織・団体への関わりだけでなく、地域社会への関わりを業務内容までに含めている。但し、ソーシャルワーカーの現実の業務遂行状態は、地域社会への関わりが弱く、ケアマネジャーの業務内容とほとんど変わらないことが明らかになった。
- (2) ソーシャルワーカーの地域を対象にした関わりは、地域住民や専門家によるネットワークづくりであり、具体的には、利用者の発見システム、地域での住民のサポートシステム、地域住民の自主的な活動、多職種専門家の連携システムといったことであることが明らかになってきた。

- (3) これらを実施することでの、日本、韓国、中国での先進的なソーシャルワーカーの分析から、以下のような方法が必要なることが明らかになった。

ソーシャルワークが関わっているネットワークには地域住民を巻き込んだ住民主体ネットワーク活動と、様々な地域の課題に対応する専門職のみで形成された専門職ネットワークの2パターンが存在することが明らかになった。住民主体ネットワーク活動の実施には、＜地域住民の主体的な意思＞が必要不可欠であり、ソーシャルワーカーは＜自発的な住民活動に対する側面的支援＞や＜住民活動の段階に応じた関わり調整＞といった【ネットワーク推進のための専門職としての支援】を行う。住民主体ネットワーク活動が定着した後は、＜確立したネットワーク活動の拡充＞や＜確立したネットワークをモデルとした他地域でのネットワーク展開＞等、ネットワークを広げるために様々な実践を行う。また、【住民主体ネットワークによる影響】として、＜地域の要援護者の早期発見＞や＜住民同士の結束の強化＞等の効果があることが明らかになった。また、専門職ネットワークは、＜個別ケースの対応・業務を通じた関係作り＞にから始まり、＜地域福祉を推進するための専門職間の連携＞により確立されるプロセスが明らかになった。この専門職ネットワークは住民主体ネットワークに比して多くのソーシャルワーカーが実践しており、比較的形勢しやすいネットワークであることが分かった。

3. 現在までの達成度

研究計画の概要である(1)(2)を終え、さらに(3)についてもほぼ全体像をつかむまでに達した。そのため、おおむね順調に進展していると考えている。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度として、以下の方法で残りの研究を進めていきたい。

- (1) 地域のネットワークに関するプロセスから捉える方法論を明確化する。
- (2) ここで明らかになった方法論を、量的調査で検証し、(1)についての若干の修正を行う。
- (3) 理論と実践をつきあわせて、ソーシャルワークとケアマネジメントの関係を整理する。
- (4) 理論と実践をつきあわせて、ソーシャルワーカーが実施するケアマネジメントのあり方について整理する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 28 件)

- ① 橋本卓也・岡田進一・白澤政和：「障害者のセルフ・エンパワメントの内的生成要因について—自立生活を送る重度障害者に焦点をあてて—」『社会福祉学』Vol. 48-4号(通巻84号)、pp. 105~117 (2008)、査読有
- ② 樽井康彦・岡田進一・白澤政和：「知的障害者施設の施設長における脱施設化施策に関する意識の現状」『社会福祉学』Vol. 48-4号(通巻84号)、pp. 118~130 (2008)、査読有
- ③ 岩間伸之「地域を基盤としたソーシャルワークの機能—地域包括支援センターにおけるローカルガバナンスへの視角—」『地域福祉研究』第36号、日本生命経済生会、pp. 37-49(2008)、査読無
- ④ 白澤政和「ケアマネジメント実践の現状と今後の発展の方向性」保健の科学 Vol. 49. No7, pp. 454-458(2008)、査読無
- ⑤ 白澤政和「介護予防ケアマネジメントの課題と展望」総合ケア Vol. 17, No. 11, pp. 19-25 (2008)、査読無

[学会発表] (計 25 件)

- ① 畑亮輔・朝野英子・綾部貴子・堂園裕美・増田和高・與那嶺司・白澤政和：「介護支援専門員の役割認識に関する研究—ケアマネジメントの包括モデルに焦点

を当てて—」『日本ケアマネジメント学会第7回研究大会抄録集』2008. 7. 24~25、pp. 80、熊本(2008)

- ② 増田和高・白澤政和：「ケースアドボカシーに着目したサービス調整支援とその関連要因—サービス提供機関、職場内の上司・同僚との連携に焦点をあてて—」『日本社会福祉学会第56回全国大会プログラム』2008. 10. 11~12、日本社会福祉学会、pp. 19、岡山(2008)
- ③ 白澤政和：国際シンポジウム「日本から見たアドボカシーとシンポジストの内容についての日本の政策および実践への応用」『国際シンポジウム 社会福祉におけるアドボカシーおよび権利擁護の国際的現状と課題—福祉政策と実践の架け橋としてのアドボカシー—』2008. 01. 12、大阪(2008)
- ④ 岩間伸之「日本におけるソーシャルワーク実践から実践モデルをどう導くか—ソーシャルワーク固有の実践モデルの形成をめぐる— [シンポジスト]」日本社会福祉実践理論学会第25回大会シンポジウム、2008. 6. 20~22、兵庫(2008)
- ⑤ Masakazu Shirasawa, "Comparative Study on Care Management Systems in the World", The 8th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics, Beijing China (2007)

[図書] (計 8 件)

- ① 白澤政和：第1章「認知症の人のためのケアマネジメント」日本認知症ケア学会監修、本間昭編著『認知症ケアのためのケアマネジメント』、ワールドプランニング、pp. 1~32 (2008)
- ② 岩間伸之『対人援助のための相談面接技術—逐語で学ぶ21の技法—』中央法規出版(2008)
- ③ 白澤政和、『ストレングスモデルによる介護予防ケアマネジメント—理論と実際—』中央法規出版 pp. 1~59